

「ココロ合せ♡チカラ合せ」 防災ネットしょうなん

BOSAI Never Ending Tension~終わりにき緊張感



2025(令和7)年7月15日／第107号

自然災害に強いまちづくりをめざしましょう！

風早北部地域ふるさと協議会



防災知識を蓄えよう～シリーズその④

今年度防災訓練の目標が概ね固まりました

「北海道・三陸沖地震への備えを」を次頁下段に掲載しています。

3月下旬にミャンマーで発生した大規模地震、三陸、瀬戸内諸県発生 of 山火事など、様々な災害が国内外で発生しています。一方、この時期に国内では国立高等専門学校(高専)5校が、自校練習船舶を災害避難場所として活用することが発表されました。若い力が災害に活用される心強い取組みと考えます。

5月31日に開催された今年度第1回防災活動に関する意見交換会にて、今期の当地域内防災活動(秋季以降実施の防災訓練)の大まかな内容が紹介されました。ここ数年で実施されていますシェイクアウト訓練、安否確認訓練、無線機交信訓練、避難所への移動訓練に加え、今期は市の地区災害対策本部員(市職員)と協働で避難所開設を行うことが目標とされ、それを今年秋以降に各地区の防災訓練として住民参加型での実施が期待されます。各訓練の概要を以下にご案内します。

住民世帯個々での「シェイクアウト訓練」の実施

地震発生直後の身の安全を確保する重要な行動の訓練です。震災後の揺れで大きな怪我をすることで、その後の避難行動にも影響します。助かる命が助からないことに繋がります(当風早北部地域には総合病院がなく、医師や看護師がこの地域から居なくなることで、怪我の治療が遅れ、命を無くしてしまうリスクがかなり高まります。この問題に柏市が真摯に解決を目指す様相には当面ありません。市行政への期待はこの際諦めましょう)。



地域住民安否確認の実施

被災者を拡大させない＝未確認世帯を極力最小限にすることが重要です

安否確認を町内で組織的に行っていますか？各世帯まかせでは、災害本番時には惨憺たる悲惨な状況が目に見えます。実施していない組織では、それを覚悟されていますか？

風早北部地域を含む旧沼南町には、各地域団体(町会や自治会)の活動拠点となる「ふるさと会館」「集会施設」を独自に所有・管理する団体が非常に限定的です。そのため、日常での防災活動にも制約が生じています。

是非、各団体で防災拠点（建物以外では、市民公園を住民の一時的集合場所）を定めそこに地域の拠点を構え、行政との**連絡ポイント**にする（そのためのテントの確保¹などを優先的に検討する）ことが推奨されます。

なお、安否確認実施結果については、災害時に電話やメールが使えない、SNSの使用にも相応の制限がかかることを想定し、簡易無線機（デジタル式トランシーバー）を使用しての通報訓練も、各団体と沼南近隣センター（地区災害対策本部）との間で、市職員主導での実施を検討します。



避難所までの移動訓練／避難所開設を より多くの住民の皆さんで体験しましょう

大災害時に避難所までの避難経路が必ずしも安全とは限りません。避難路の安全性を確認するまでは一時的な地域内の避難場所（前述の**連絡ポイント**もこれに当てはまります）を定め、これを平時から住民で共有しておくことが重要です。



各学校の避難所運営は、市行政（市役所職員）や学校管理者が避難所開設時点以外は原則担当しません。避難所では誰かがお世話をしてくれるとの思いを先ずは捨てましょう。避難した住民による協議合意と自治で運営されることが基本と考えましょう。在宅避難者への避難場所からの支援についても考慮しておく必要があります。

各家庭で災害避難時の、非常持出品（食料や飲料水を含みます）は用意されていますか？ 避難所に行けば何かあるはず、もらえるはずとの期待は今すぐ捨ててください。

なお今年度は、柏市職員（風早北部地区災害対策本部員）と協働で避難所を運営していく訓練の実施も検討中です。その際、3月末に閉館した沼南近隣センターについては、本年4月から9月までは現在の同センター（閉館中）事務所に職員が勤務しており、その職員が対応し（但し、住民避難先は柏市役所沼南支所の第一庁舎を予定）し、9月以降は、現在の沼南支所脇の旧保健センター建物が当面の沼南近隣センター（こちらが「風早北部地区災害対策本部」）となる模様です。

更に、今年度の防災訓練では、①発災後のトイレ（下水）対策、発災時に怪我をしない、火災などの二次災害を防ぐ、②学生（主に中学生や高校生）にもマチの防災活動に積極的に参加していただくことを大きなテーマにかかげています。

南海トラフ大地震だけではなく！「北海道・三陸沖」地震にも注意を

最近、東北地方の防災専門チームが、北海道・三陸沖の大規模地震発生の可能性を伝えるマスコミ各社からの報道がありました。以前から内閣府防災担当及び気象庁よりこの地震への注意喚起が発信されています。巻末 P5-6 のチラシ（HP 掲載版のみ添付）を参照され、その詳細については、右の二次元 QR コードでアクセスし漫画版をご覧ください。



ファイルサイズ
4.8MB

¹ 柏市福祉部福祉政策課（☎04-7167-1131）では日本赤十字社の協賛で、防災テント無償支給を行っています。

南海トラフ大地震対策として地域住民の皆さんが減災のために率先して考えていただきたい「自分の命は自分で守る」ポイントは？

(1) 家具などの転倒・落下防止対策

現在の実施率は約 35.9%。このままだと、家具の転倒などによる死者数は約 5300 人と想定されています。

実施率 100%の場合は約 1800 人と 7 割ほど減らせます。方法としては金具で固定、難しければつっぱり棒などで固定するといいといえます。その際は壁際で 2 箇所固定することが重要です。

私たち風早北部地域ふるさと協議会では、一昨年从这个大規模災害発生時に市民が大怪我をしない、させない取組みとして、柏市には、定期的な講習会の実施、独居高齢者宅に転倒防止措置のための補助金支給などを要求しています。

(2) 深夜でも10分以内に津波から避難

早期避難意識が低い場合は津波による死者数が約 21.5 万人。全員が地震発生後 10 分で避難を開始した場合は約 7.3 万人と 7 割減らすことができます。地震後素早く避難するためには、防災グッズを玄関に準備し、停電に備え感震ライトを玄関までの動線に設置するとスムーズに避難が可能になります。

柏市は津波災害の危険はありませんが、日頃から各家庭で防災グッズや夜間対策の照明具を備えること、各地域で毎年一度は住民参加型防災訓練を実施し、いざという時に備え行動できるよう住民の皆さんに訴えています。

(3) 「感震ブレーカー」を設置

感震ブレーカーは、震度 5 強相当の揺れを感知し電気を自動で遮断する機器。現状、設置率が約 8.5%ですが、これが 100%になると火災による焼失棟数を半減できるということです。分電盤タイプの内蔵型は 5～8 万円かかりますが、簡易タイプバネ式は 4000～5000 円、おもり式だと 2000～3000 円ほどで対策が取れます。

柏市では今年度、簡易式感震ブレーカー設置費の補助支援をしています。その申請方法は、柏市消防局火災予防課（☎04-7133-8792）WEB サイトからの電子申請、あるいはは、申請書を直接窓口に出すか、郵送となります。

③

最後に、災害が起きた際にとるべき行動につき「あ・い・う」で示しますので、是非覚えておき、すぐ行動に移せるようにしておきましょう。

あっ! 地震だ

と感じたら・・・その場が危険であれば、すぐに安全な場所＝頭や身体を守れる場所に移動して、揺れが収まるのを待ちましょう。

火の元（調理台ガスコンロやストーブの消火）確認にすぐ動くことは危険です。揺れがなくなっても消火は遅くないはずです。まずは自分や同居家族の身の安全確保を最優先しましょう。

い ちどは地域内防災訓練や活動に参加しましょう

大きな災害は、事前の訓練なしでは本番でほぼ何もできないことを覚悟しましょう。幸い、当風早北部地域の各団体（残念ながら防災活動が事実上休眠状態の団体もありますが）の多くが、毎年10～12月にそれぞれ、住民参加型防災訓練を行っていますので、是非、ご参加ください。

う たがうことなく「発災時には絶対大けがをしない」ことに徹してください

当地域には緊急時の医療対応が可能な大規模病院がありません。よって発災時に運悪く大けがをした場合、普段は助かる命が助からない事態になります。柏市はこうした状況を打破すべく、沼南体育館を非常時応急医療施設として活用できるよう検討を進めていますが、設置までの課題が多く、私どもは本施策の実現には相当の年数を要する、あるいは実現はかなり困難と考えています。即ち、柏市の現在の資力(財政力)では「到底無理」との結論です。まずは、市民一人ひとりが、大規模震災時に大けがをしないことを最優先に考えた行動を基本動作にすることでの対処をお願いします。

④